

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 3 月号



【東牟婁振興局】3/22 ジビエ活用研修会を開催

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局

1 - 2

1. 紀美野町農業士会が県外研修を開催
2. 施設栽培コマツナのコナガ防除対策研修会

II 那賀振興局

3 - 4

1. 紀の川市4Hクラブが環境制御技術ワークショップを開催
2. 取り組んでみよう！「GAP」 研修会を開催

III 伊都振興局

5 - 6

1. 農業技術講習会（果樹専門コース）の開催
2. 新規就農研修会を開催しました

IV 有田振興局

7 - 9

1. 有田地方リーダー研修会～地域の特産品を使って～を開催！
2. 温州みかん苗木の植え付け研修会を実施
3. 有田地方環境保全型農業研究会が技術研修会を開催！

V 日高振興局

10 - 11

1. みなべ町農業士会青年農業士が現地研修を実施
2. 由良町農業士会が県内研修を実施
3. 由良町生活研究グループが子どもクッキング教室を開催！

Ⅵ 西牟婁振興局 **12－13**

1. 音無茶勉強会を開催
2. 川添茶勉強会が開催されました

Ⅶ 東牟婁振興局 **14**

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】
～三津ノ地域活性化協議会が地域ぐるみの鳥獣害対策及びジビエ活用研修会を開催～

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター **15**

1. UIターン就農相談フェアを開催

Ⅸ 経営支援課（農業革新支援センター） **16**

1. 普及活動計画実績発表会を開催

I 海草振興局

1. 紀美野町農業士会が県外研修会を開催

3月2日～3日、紀美野町農業士会（曲里元文会長）は、J A三原せとだ支店及びヤマトフーズ（株）（広島県）にて、レモン栽培及び地域特産物を活用した商品開発等に関する研修を行った。

レモン栽培に関する現地見学では、J Aの営農指導員から取り組みや栽培状況等について説明を受けた。見学した園地では、2月からのかん水や定植時の客土、堆肥の投入などの細やかな栽培管理や選定技術等により、露地で9t/10aの収量かつ高品質な生産を実現しているとのことだった。

レモンの加工を行うヤマトフーズ（株）では、代表取締役社長の串山敬太氏より、レモン加工を始めた経緯や会社の成長に向けた取り組みにおける苦労談などを聞いた。

レモンを活用することで地域農業の発展を目指す企業姿勢、地域産業との連携方法や考え方などに共感し、今後の活動の参考にしたいとの声も聞かれた。

農業水産振興課では、今後とも、農業・地域振興につながる研修の実施に向け、支援していきたい。



瀬戸田町内のレモン栽培現地研修



地域産業との連携等についての意見交換

2. 施設栽培コマツナのコナガの防除対策研修会

2月26日～3月19日にかけて、農業試験場、J Aわかやまと連携して、施設栽培コマツナの防除対策研修会を開催した。

この取組は今年度から、農林水産業競争力アップ技術開発事業を活用し、農業試験場が中心となって、J Aわかやま、農業水産振興課がおこなってきた現地調査の結果を報告するもので、和歌山市内4カ所で開催し、延べ約40名の生産者が出席した。

研修会では、農業試験場環境部井口主任研究員から、現地で採取したコナガを使った主要農薬の殺虫効果の検定結果や、布引地区での性フェロモン剤を活用した交信攪乱の効果、河

西地区での防虫ネットによる物理的防除について説明をおこなった。

出席者からは、「性フェロモン剤を活用した交信攪乱技術は、どれくらいの面積で取り組めば良いか」、「夏場のビニールハウスで、防虫ネットを設置した場合、ハウス内の温度は高温になりすぎないか」など活発に質問が出され、生産者の関心の高さがうかがえた。

当課では、今後も農業試験場、JAわかやまと連携して取組を進め、コナガの防除技術確立によるコマツナの安定生産の推進を図る。



JA わかやま名草支店での研修会



JA わかやま西部営農センターでの研修会

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市4Hクラブが環境制御技術ワークショップを開催

紀の川市4Hクラブ（大西清悟会長）は、株式会社ワビットの小林一晴氏を講師に招き3月18日、19日の2日に渡り環境制御技術ワークショップを開催した。クラブ員、新規就農者ら15名が参加した。

1日目は、すでに環境制御機器を自作、設置している4Hクラブ員の西氏、吉見氏、井上氏のハウスを巡回し、小林氏より実際の運用にあたっての改善すべき点、注意すべき点等についてアドバイスを受けた。

2日目の午前中は講義形式により学習を行った。環境制御の利便性や将来性、クラウドサービスを利用した制御方法などの説明があった。環境制御の利点を解説する一方で、制御装置に頼りすぎないこと、バックアップを常に用意しておくこと、ローカル制御の重要性についても説明があった。午後からは環境測定センサの組み立てを講師が行い、ハンダ付けや配線方法など、実践的な解説を交えながら実演した。

今後はクラウドサービスの活用や、各会員のセンサデータを検討することで制御の高度化に繋げていきたい。



飽差データを利用した
ミスト散布の検討



講師による講演



センサの組み立て

2. 取り組んでみよう！「GAP」 研修会を開催

3月16日、那賀地方有機農業推進協議会（関弘和会長）は、「取り組んでみよう！『GAP』」をメインテーマに、有機農産物の流通やGAP等に関する研修会を開催した。管内生産者ら28名が参加した。

講師には、野中誠二氏（株式会社MOA商事）、関弘和氏（株式会社ビオ・マーケット）を招いた。野中氏からは、「有機農業の流通事情」をテーマに、流通コスト削減について国の事業を利用した実証試験結果について報告があった。個々に対応していた物流を一本化することで青森県から関東への運賃を1,000円から274円と7割以上削減できた事例について説明があるなど、有機農業の今後の流通のあり方について話があった。

次に関氏からGAPについて講演があり、「取得のメリットは見えにくいですが、異物混入によ

る信用失墜のリスク軽減など、今後取り組んで当たり前になっていくだろう。GAP が標準化してきたときに『GAP って何?』とならないよう、早めに取り組んでおく必要がある」と述べるなど、GAP の重要性について説明があった。

参加者からは、「オリンピック・パラリンピック以降も GAP 推進は続くのか」などの多数の質問があった。但し、研修会後にとったアンケートによると、GAP に興味をもっている農家は数多くいるものの、すぐに取得したいと考えている農家は少ないようだった。来年度からは GAP 取得農家を増やすため、GAP の取得意思のある農家をモデル農家として研修会などを行っていきたい。



講師による講演



出席者からの質問

Ⅲ 伊都振興局

1. 農業技術講習会（第4回果樹専門コース）の開催

3月6日、農業水産振興課では橋本市内柿園において柿の接ぎ木実習を実施、8名が受講した。

はじめに、伊都振興局会議室で普及指導員が資料を基に接ぎ木の基礎技術を説明し、続いて、接ぎ木ナイフの刃砥ぎ、接ぎ穂のパラフィン処理の仕方を実演した。その後、実際に接ぎ穂の削り方を練習し、現地の柿畑へ移動した。

現地では、普及指導員の指導のもと「平核無」に極早生品種を高接ぎし、穂木を接ぎ木テープで固定、メデールテープで被覆した。

受講者の中には不慣れな手つきで高接ぎをする初体験者、慣れた手つきで割接ぎをする経験者など様々であったが、それぞれ実習に没頭していた。

今回で専門コースは最終回であり、出席者にアンケートを取ったところ「座学のあと実習があり実体験できて良かった。富有柿とたねなし柿の剪定の違いがよく理解できた。写真付きの資料や病害虫の実物が解かりやすかった」など講習会全体の感想が寄せられた。

当課では、今後もより実践的な研修会となるように内容の充実に取り組んでいく。



接ぎ木の基礎について説明



パラフィン処理の実演



現地での接ぎ木実習



普及指導員から接ぎ木時の
注意点について説明

2. 新規就農者研修会を開催しました

3月1日、農業水産振興課では伊都振興局中会議室において新規就農者研修会を開催した。新規就農者へのアンケート調査で要望が多かった販路をテーマに企画したところ、就農予定者4名を含む14名が参加した。

はじめに、和歌山市中央卸売市場で農産物の仲卸業を行いながら和歌山市内で小売業を営んでいる有限会社立野商店の立野眞生代表から「最近の青果物の動向と注目している野菜」と題して講演が行われた。立野氏からは市場流通と市場外流通の違いや注目の野菜を紹介するとともに、主力の品目以外に一部ブランディングのためになる品目を作ること、栽培の風景や手間などをSNS等で発信することで安心感を売ることが大事だとアドバイスがあった。

また、意見交換に際して、一心農園の元家恭子氏から自身の販路開拓や6次産業化の取り組みについて話題提供があった。一心農園は富有柿を中心に栽培し、全て個人出荷している。元家氏からは味だけではなく見た目も重視した商品づくりや規格外品をアイスに加工した経緯など説明があった。参加者から「ネット販売の取り組みについて教えてほしい」等質問があり、その後自身が取り組んでみたい販路について意見交換し、元家氏や立野氏からアドバイスがあった。

当課は今後も農業者の経営・技術の向上につながるよう研修会や交流の場づくりを支援していく。



立野氏による講演



元家氏から販路について説明

Ⅳ 有田振興局

1. 有田地方リーダー研修会～地域の特産品を使って～を開催！

3月5日、有田市初島公民館において、有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：宮本富美子氏）の会員及び関係者 27 名が参加し、地元農産物の利用拡大と加工技術の向上を目的に、有田地方リーダー研修会を開催した。

今回は有田地域の特産品及びその加工品を使って試作した。講師は会員と農業水産振興課の池田技師が務め、グループに分かれて調理し試食した。

いずれのメニューも好評であったが、特に、会員が栽培したイチジクやキウイフルーツで作ったジャムを添えた温州みかんを挟んだフルーツパンケーキは、フルーツの風味が口いっぱいに広がって美味しいと好評だった。会員らは料理に舌鼓を打ちながら、各地域独自の料理について熱心に情報交換していた。

今回の研修を契機に、会員間の交流がより深まり、有田の地域産品の利用拡大が進むことを期待したい。



4 グループに分かれて調理



好評だったフルーツパンケーキ

2. 温州みかん苗木の植え付け研修会を実施

就農して間もない農業者を対象に実施している「アグリビギナー等技術経営研修」の第 5 回（今年度最終）を 3 月 7 日に実施し、16 名が参加した。

上山苗木店の上山寿一氏（有田川町、地域農業士）より、温州みかん苗木の植え付けや幼木の整枝方法について、実演を交えながら説明を受けた。

「植え付け後の生育は、根域の土壌をいかに乾かさないかで決まる」ということで、根鉢を包んでいるナイロンを表面に敷くなど、雨水をうまく活用して乾燥を防止する方法について、いろいろなアイデアの紹介があった。

また、日頃から作業の効率化を心がけ、分からないことがあれば、自分であれこれ考えず

に、聞ける人を見つけて試してみることで答えが見つかるなど、今後に向けたアドバイスもあった。

植え穴の大きさや苗を置く向きのほか、良い芽を出すための枝の切り方など、参加者からの多くの質問に対し、園地の条件や枝の状態別での対処方法など丁寧な解説があり、終了後のアンケートでは、「よく理解できた」という意見が多かった。

農業水産振興課では、今後も技術や知識習得のための研修をはじめ、参加者同士や農業士等の地域リーダーとの交流会など内容を充実させて、新規就農者が地域の担い手として定着する取組を継続していく。



苗木の植え付け方法について



幼木の整枝剪定について

3. 有田地方環境保全型農業研究会が技術研修会を開催！

3月12日、果樹試験場の会議室にて有田地方環境保全型農業研究会（会長：池田義行氏）の技術研修会が開催され、会員、関係者ら合わせて45名が参加した。本会は、化学肥料や農薬を減らしたカンキツ栽培を実践、あるいは興味を持っている農家を中心に構成され、会員の栽培技術向上や知識習得を目的として定期的に研修会を開催している。

本研修会では、農業水産振興課の松山技師が、GAP（農業生産工程管理）の概要について説明を行い、その後果樹試験場栽培部の鯨部長、田嶋主査研究員より、前年の気象条件を振り返っての平成30年産温州みかんの生育予想と今後の栽培管理、みかんの新品種「YN26」及び「きゅうき」の今年度の生育調査結果と栽培方法、今後のカンキツの有望品種などについて説明があった。

その後、果樹試験場の圃場見学が行われ、会員は使用している肥料や、樹勢を保つための管理方法などについて熱心に質問していた。

当課では、今後も環境保全型農業推進の一環として同会の取組を支援していく。



松山技師による GAP の説明



鯨栽培部長による講演



果樹試験場の農場見学

V 日高振興局

1. みなべ町農業士会青年農業士が現地研修を実施

3月2日、みなべ町農業士会（会長：中井昭）は、有田川町、有田市において青年農業士の現地研修会を実施し、会員9名が参加した。

最初に、有田川町の「ゆら早生」栽培園（園主：稲住昌広氏）において研修を行った。園地改造して傾斜を緩和し、SS（スピードスプレヤー）で防除できるよう植栽した極早生みかん「ゆら早生」園を見学し、園地改造に至った経緯、省力効果、果実品質への影響、収穫等にかかる労働力の現状等について説明を受け、かんきつの大規模経営における農作業の効率化、省力化に対する考え方について研修した。

次に、有田市宮原町東の株式会社早和果樹園（代表取締役：秋竹俊伸氏）において、現地研修を行った。生産部門の責任者で取締役専務の松本将輝氏から、会社の概要と会社で生産している温州みかんをはじめとするかんきつ類の生産状況、それに携わる社員への研修や就労状況、管理作業の効率化への取り組み等について説明を受け、研鑽を深めた。

今回の研修は、梅以外の果樹の省力化や労働力の最適化などを学ぶため実施したが、梅栽培と同じように労働力の確保に苦労されている点や園地改造・機械の導入等で工夫されている点など、参考になることが多い有意義な研修となった。



ゆら早生栽培園見学



早和果樹園での研修

2. 由良町農業士会が県内研修を実施

3月23日、由良町農業士会（会長 杉谷哲哉）が古座川町にて県内研修を実施し、会員10名が参加した。

始めに、南紀月の瀬温泉ぼたん荘にて、古座川町産業建設課の細井孝哲主査から、「厄介者を地域の宝に！」と題し、古座川町における鳥獣害の現状や対策、ジビエとして活用するようになった経緯などの説明を受けた。

また、同じ敷地内にある「古座川町鳥獣食肉処理加工施設（古座川ジビエ山の光工房）」を見学した。この加工施設は、猟友会からの要望と、観光客へ名物料理を提供ができないか

との思いがきっかけでできた施設であり、搬入口から冷凍保管室まで、衛生管理・品質面において徹底した設計となっている。

研修を終えた会員は、「どこも同じ課題を抱えているのがわかった」、「ジビエとして活用できるのはいいことだ」等の感想が聞かれ、これからも課題解決に向けて頑張ろうと士気が上がった研修となった。



ぼたん荘での研修



施設の見学

3. 由良町生活研究グループが子どもクッキング教室を開催！

3月27日、由良町中央公民館にて、由良町生活研究グループ（後藤明子会長）が子どもクッキング教室を開催し、町内小学校3～6年生9名が参加した。

内容はハンバーガーづくりで、子供たちは会員に教わりながらパテを作ったり、野菜を切ったりし、パンで挟んで皆で試食した。子どもたちからは、「自分でハンバーガーを作ったのは初めてで楽しかった」などの感想が得られ、会員も「子どもに料理や食事の楽しさを知ってもらふ最初のきっかけになれば嬉しい」、「今度は地元のものを沢山使った料理を教えてあげたい」と述べており、充実した食育教室になった。



クッキング教室

VI 西牟婁振興局

1. 音無茶勉強会を開催

3月23日、農業振興課では、音無茶勉強会を開催した。

講師は普及指導員と川添緑茶研究会会長の上村誠氏で、生産者13名、JAみくまの職員3名が参加した。

普及指導員から、樹勢回復のための剪枝方法、防除と施肥のポイント、収量を安定させるための整枝方法などの栽培技術について説明した。

また、上村誠氏より、いろいろな茶の種類と淹れ方についての説明があった。

煎茶、釜炒り玉緑茶、紅茶を飲み比べ、茶葉の加工方法による形状、色、香り、味の多様性を学んだ。また、熱湯、冷まし湯、氷水といった湯温の違いによって煎茶の味が変化することに参加者は驚いていた。

勉強会を通じて、樹勢回復の重要性を認識し、今年から剪枝作業を進めたいと話す参加者や、紅茶を作りたいと話す参加者が現われ、より良いお茶作りへの意識を醸成するきっかけとなった。

今後も栽培技術とともに、生産者に自ら茶を飲むことを提案して、「どのような茶を飲みたいか・そのためにどのような茶を作っていくか」を生産者自身が考えることのできる産地を目指して茶の振興を支援していきたい。



みんなで栽培技術を勉強



お茶の淹れ方も改めて学ぶ

2. 川添茶勉強会が開催されました

3月25日、川添緑茶研究会主催で、川添茶勉強会が開催された。

講師は川添緑茶研究会会長の上村誠氏で、川添緑茶研究会会員9名、J A紀南職員1名が参加した。

上村氏より、いろいろな茶の種類の説明と淹れ方についての説明があった。

煎茶、釜炒り玉緑茶、白茶、紅茶を会員自身で淹れ、淹れ方を学びながら、茶の味の多様性を楽しんだ。さらに、湯温の違いによる茶の味の変化も改めて認識し、お茶のうま味を味わった。

参加者らは美味しい茶を作るための茶樹の栽培管理や加工法についてや、産地に適した園地の共同管理や収益性の高い加工法等について議論をしながら茶を味わった。自分たちの作る茶の味と淹れ方を知り、今後どのような産地にしていくかを考える勉強会となった。

今後も栽培指導とともに、産地をどのように維持・活性化していくか生産者が自ら考えてもらえるような場づくりについての支援も行いたい。



いろいろな種類のお茶の淹れ方と味を確認



手揉みの煎茶も湯温で味が変化

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】

～三津ノ地域活性化協議会が地域ぐるみの鳥獣害対策及びジビエ活用 研修会を開催～

三津ノ地域活性化協議会（会長 下阪殖保）は、3月22日に、地域ぐるみの鳥獣害対策及びジビエ活用研修会を熊野川温泉さつきにおいて開催し、農家等27名の参加者があった。

古座川町役場産業建設課細井孝哲主査から「地域ぐるみの鳥獣害対策及びジビエの活用」について講演があった。

また、新宮市内の飲食店のシェフ5名が古座川町産の鹿肉、猪肉を使い、調理手順や家庭で取り組みやすい方法などを説明しながら実演した。

参加者らは鹿ロース肉のロースト、猪ロース肉のパスタを試食した。

参加者からは「捕獲した鹿など有効に利用されており、捕獲時の放血処理、解体処理時の衛生管理もきちんとしていて安心できる。」「ローストは炊飯器を利用すれば簡単にできることがわかったので挑戦してみたい。」などの感想が聞かれた。



講師の細井氏



講演会



シェフによる調理実演



ジビエ料理の試食

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. UIターン就農相談フェアを開催

3月11日、就農支援センターにおいて、県内で自立就農や農業法人等への就職を希望する人を対象とした「UIターン就農相談フェア」を開催した。

これは、和歌山県、(一社)和歌山県農業会議、(公財)和歌山県農業公社が主催するもので、11組14人(県外5組、県内6組)が来場した。

「農業を始めるにはまず何をしたらいいのか」、「農業技術を身につけるにはどうしたらよいか」など、来場者の相談にじっくりと対応した。

また、事前に申し込みのあった11名が併せて農業体験研修を受講し、ほうれん草の種まきや、ミニトマトの収穫、出荷調整作業を体験した。

その後、印南町現地のエンドウ豆ほ場に場所を変え、現地視察を行った。兵庫県出身で新規参入している先輩就農者から就農当時に経験した苦労話や地域住民の信頼を得る方法などなかなか聞きにくいようなことも教えてもらえ、有意義な現地視察になった。



相談風景



現地見学

IX 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 普及活動計画実績発表会を開催

3月14日、県民文化会館（和歌山市）において県農業改良普及連絡協議会会員出席のもと、標記発表会を開催した。本協議会は、農業改良普及活動が地域ニーズを反映させ、より活動の成果が上がることを目的に設置したもので、今回は会員（構成員：先進的農家、J A、市町村、学識経験者、マスコミ、民間等）から普及指導計画に基づく活動への意見や評価を受けた。

和歌山大学大西敏夫教授が座長進行のもと、各振興局で取り組んでいる普及指導計画重点プロジェクト9課題（うち2課題は産地ブランド発掘事業を兼ねる）について担当者から発表を行い、会員から忌憚のない意見や提案を受けた。

会員からは、「新技術、新品種の普及など各地で貴重な成果が出ている。」と好評価される一方、「後継者や雇用労働者の不足など新たな課題も浮上している。本成果を生かしつつ、普及組織やJ A、市町村等の関係機関とともに課題に取り組んでほしい。」といった今後の活動に期待する声や要望も多く出された。



重点プロジェクトの報告

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489